つんのーで！

佐世保市立中里中学校
学校だより　第１６号
文責　校長　川　口　貴　晴
令和７年６月１０日（火）発行

【学校教育目標】　「自ら学び、考え、行動し、自ら『生きる力』を培う生徒の育成」
【めざす学校の姿】「生徒が通いたくなる学校」「保護者が子どもを通わせたくなる学校」
「地域が自慢したくなる学校」「教職員が勤めたくなる学校」
【めざす生徒の姿】「愛（合い）のある生徒」
～支え合い、学び合い、磨き合い、高め合い、励まし合い～
【めざす教師の姿】「時代・社会の要請を理解し、自らの教師力・人間力を高める教師」
【めざす授業の姿】「生徒の主体性・確かな学力・生きて働く力を育む授業」

公開授業＆メディア教育講演会

6月4日(水)は、「いのちかがやく強調月間」の1つとして、全学級の道徳科の公開授業を実施しました。100名以上の保護者が来校され、生徒と共に改めて「いのち」について考えていただきました。なかなか「いのち」についての会話はご家庭ではできないこともあると思いますが、今回の参観などを話材にして、ぜひご家庭での話題にしてほしいと思います。暑い中来校いただいた保護者の皆様、そして駐車場係としてご協力いただいたPTAの皆様、無事に公開授業が実施できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

道徳科の公開授業に合わせて、全国でも著名な理学療法士であられる杉野伸治先生をお迎えして、家庭教育講座の一環として、「メディア安全指導教育講演会」を行いました。スマホなどのメディア使用が過度になると脳や身体に異変が起きることや、生活習慣に影響が出て心身の発達において取り返しのつかないことがあるといった話は、生徒のみならず、保護者、教職員にも大きな衝撃が走る内容でした。

また、「今からできることをしっかりやれば改善できる」「やるかやらないかは本人次第。やれば結果に繋がるし、やらなければ結果は残らない」などのお話がありました。つまり当たり前のことだけど、「やるかやらないか」そして、それを他人からあれこれ言われてするのではなく「自分の考え（決断）で決めること。そして続けること」に意義があり、その差は大きいとの話には、多くの保護者・教職員が大きくうなずいていました。参加型の講演で、生徒は最後まで熱心にそして楽しく話に聞き入り、大変学びの多い講演会となりました。

100名近い保護者が参加され、「参加してよかった」「まずはお風呂に入りなさいをやめようと思った」「子どもの主体性を大事にしたい」「この講演会は定期的に開いてほしい」などの感想が多数寄せられました。今回の講演会が、今後の生徒の心身の健全な成長の一助になればと願うばかりです。ご多用な中に、素晴らしいお話をいただいた杉野先生、本当にありがとうございました。

なお、諸事情で今回の講演会に参加できなかった保護者の皆様は、どうぞお子様にお尋ねください。きっとたくさんのことを学んでいるはずです！本当にためになる、目からうろこのお話ばかりでした！

教育実習生がやってましたよ！

6月2日(月)から教育実習生が二人来校しています。どちらもやる気満々で、早くも多くの生徒に囲まれています。「教員は･･･」と言われる時代に、教職を目指す二人をしっかりと支え、良い実習となるようにしたいと思っています。生徒の皆さんも二人の教育実習が実りあるものになるように、いろんな面での協力をよろしくお願いします。

二人が自己紹介を書いてくれたので紹介します。

〇城下　天李さん〇･･3年1組、社会科

日本経済大学3年の城下天李です。今回、母校であるこの中里中学校に教育実習生として戻って来られたことをとても嬉しく思います。先生方、そして生徒の皆さんからたくさん学び、実りのある2週間になるように頑張ります。よろしくお願いします。

〇川内野　鈴さん〇2年1組、家庭科

別府大学短期大学部2年の川内野　鈴です。3週間教育実習でお世話になります。担当教科は、家庭科です。中里中学校の皆さんと過ごせることをとても楽しみにしてきました。皆さんとたくさん話をしたいので、廊下や教室で見かけたら気軽に話しかけてくれると嬉しいです。短い期間ですが精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

市中体　第１週～第３週まで終了！

　心配された天気の影響をあまり受けることなく、市中体各競技が順調に実施されました。
　各競技（各部）とも「最後まで」の願い通り、最後の最後まであきらめることなく、粘り強く走り、躍動したと各顧問の先生からうかがいました。何よりのことです。
　試合には勝敗がつきものです。結果はそれぞれであったと思いますが、それぞれに勝敗以上に得たものがあったと思います。きっとどの選手も今大会に臨む自分は、「自分史上過去最高の自分」であったと思います。なぜなら、どの選手もきつい練習に耐え、頑張りぬいて試合当日を迎えているのですから、スタートライン、ピッチ、コートに立った、その瞬間こそが「自分史上最高」であったと思います。対戦相手もそうです。だからこそ「最高同士」でぶつかり合う真剣勝負は意味があり、そこから学ぶことが多いのだと思います。
　今大会を最後に引退をする3年生の皆さんは、これまで頑張ってきた自分を、自分でほめてほしいと思います。きつい練習に耐えた身体と心に感謝してほしいと思います。そして、「あなた」の競技人生はまだまだこれからです。中学時代に経験した真剣勝負がスポーツだけではなく、この後の人生に大きな財産になるはずだと確信しています。（私もそうでした）　部活動以外のクラブチームや社会体育で真剣勝負に臨んでいる人も同様です。ぜひ、これまでの頑張りや今の悔しさ、思いを次の目標（ステップ）に向かうエネルギーとしてほしいと願っています。この後が大切なのです！
　また、今大会で県中総体出場を勝ち取った皆さんおめでとうございます。次はさらに大きな舞台が待っています。これからも「自分史上最高の自分」となって試合本番を迎えてほしいと思います。

※来賓をお迎えした開会式がバドミントン会場で行われました。本校主将の中間梓巴さんの選手宣誓がものすごく立派だったと関係者の方から連絡をいただきました。嬉しかったです。

※市中体の結果につきましては、詳細が分かり次第、学校だよりや学校 HP 等でお伝えします。
　もうしばらくお待ちください。

「いのちの講話」の感想から

　今回の講話の感想は、どれも素晴らしいものばかりでしたので、続報でお伝えします。生徒の「いのち」に対する思いや考えをお知りください。

○今日の壺の話を聴いて感動しました。自分が役に立たないと思っても。実は役に立っていることを知って、壺は心が軽くなったのではないかと思います。そして、「死ね」や「消えろ」などの言葉が多くて驚きました。私も時々「うざい」という言葉を使ってしまうことがあるので気を付けたいです。「ありがとう」の言葉を言われて嬉しい人が結構いたので、その「ありがとう」の言葉がたくさんつかえる場面がもっと増えたらいいなと思います。（1年生）

○この「いのちを見つめる講話」を聴いて、自分にも思い当たることがたくさん見つかりました。私のクラスでは、失敗した時などに少し笑ってしまうくせがついてしまっているので、それはいけないことだと今日改めて感じました。自分はちょっとからかっているつもりでも、相手はいやな思いをしているかもしれないので、自分がされたらいやなことは絶対せず、自分がされて嬉しいことをしていこうと思います。人間は、一人一人個性があるので、個性を尊重していきたいです。この「いのちを見つめる講話」を聴いたことで、自分や周りのみんなの行動が変わったらいいなと思います。改めて命が一人一つしかない大事で大切なものだと感じました。（2年生）

○クラスとかで「●ね」や「●ろす」など、いろんな言葉（悪口）が言われていることを聴いて、◎組は仲良しなクラスでいようと思った。また、友達を大切にしようと思いました。中里地区だけじゃなく、皆瀬の方でも「中里中は元気な挨拶をするね」と思われるように頑張りたいと思いました。そして「ありがとう」と言われたら「どういたしまして」と返そうと思いました。（2年生）

○今日の「いのちの講話」を聴いて、いのちの大切さや言葉の選び方は大切だなと改めて思いました。これを通して、みんなが楽しく学校に来られる学校生活にしたいです。みんなが変えるのではなく、自分でも変えていきたいです。（3年生）

○この講話を受けて、私は、自分では気付けないが、他の人たちが気付くよいところがあると思いました。壺の話を聴いて思ったことは、自分は完璧じゃなくても良いんだなと思いました。相手と比較せず、私は私だから、みんなから嫌なことをされたり、けなされたりしても、自分を好きになろうと思いました。人が嫌がることはしない、させないと自分の心と約束しました。（3年生）